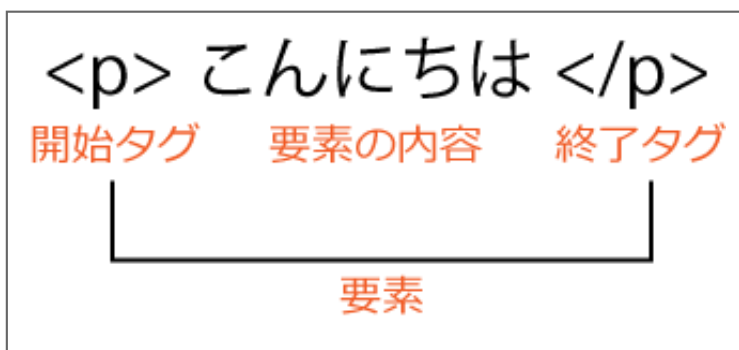


実際にコーディングをしていく前に、HTMLとは何かを学んでいきましょう。

## HTMLとは、データにしるしを付したテキストデータ

わたしたちが、Webブラウザ（ホームページ閲覧ソフト）で、みているホームページ（Webページ、Webサイトともいいます）はHTMLファイルの集合体でできています。

HTMLはテキストファイルで、テキストデータにしるしをつけたものです。このしるしを「タグ」と呼びます。タグは開始タグと終了タグがあり、データの前後をタグではさみます。開始タグから、終了タグまでを要素といいます。開始タグから、終了タグの間のデータを要素の内容と呼びます。



タグをデータにつけることを、タグ付け、タグ打ち、マークアップと呼びます。マークアップとは、印をつけるという意味です。

タグには、それぞれ意味があり、意味は定義済みです。

たとえば<p>タグは、段落を表します。タグを付けることで、データを構造化させ、データを検索したり、共有しやすくなります。

タグは100種類以上ありますが、実際に使うタグは20%くらいです。重要なタグは、頻出しますので、無理に覚えようとせず、制作しながら自然に覚えていくとよいでしょう。

## HTMLはやさしくかけます

HTMLはやさしく書けます。

Webをつくったティム・バーナーズ・リー卿は、Webブラウザは、ページをみるだけでなく、みている人がHTMLを自由に修正、追加できることを想定していました。

ですので、HTMLのルールはシンプルです。これはティム・バーナーズ・リー卿が働いていたCERNという組織の人たちに、抵抗なく、新しい技術を普及させるためでもありました。

Web以前にHTMLの元になったマークアップ言語は存在していました。ですが、難しくて

普及しなかったのです。その教訓を活かし、HTMLはシンプルな仕様です。最小限のルールさえ覚えれば、すぐに書くことができます。

## HTMLはクロスプラットフォームです

うれしいことに特別なOSやソフトも不要です。テキストエディタさえあれば、OSを問わずHTMLを制作ができます。テキストエディタは無料から有料までたくさん種類がでていて、自由に選べます。

つくったHTMLもOSを問わず、テキストエディタで編集をすることができ、Webブラウザで表示することができます。

## HTMLは標準仕様です

HTMLはW3C（ティム・バーナーズ・リー卿が創設）という非営利団体で標準仕様が決まっています。Webブラウザを開発する企業は、W3Cの仕様に基づいて、開発を行っています。

## 実際にHTMLをみてみよう

実際にHTMLをみてみましょう。

Google Chromeを起動して、お好きなホームページをみます。ページ内で右クリックすると「ページのソースを表示」をクリックします。実際のコマンドの文言は、Webブラウザによって微妙に変わります。長いテキストが表示されたとおもいます。これがHTMLです。いまの段階では意味不明なテキストの羅列ですが、雰囲気だけを見ておいてください。

今回はここまでです。[次回に続きます。](#)